## 第一章 イスラームの人間観と自然観 1

人間観 2 (5)真実の「生」 ①人間は神の被造物

(2)自然と人間

(3)現世と来世

(4)来世の楽園

葬 送 16

①来世へ送る儀礼

Ξ

環境倫理

24

(2)簡素な墓地

(3)葬送観を学ぶ

(2)聖域の環境倫理

③近代科学の功罪

イスラーム的フェミニズムの地平 ①ヴェールの陰で ②クルアーンにみる女性像 34

四

4 「木を植える」ために

①環境保護の原点

3イスラーム法にみる女性像 4社会を修道院として

一 初期イスラーム神学とムウタズィラ学派 50 第二章

啓示と理性

49

vii

## 五 四 = 宗教倫理思想の枠組み クルアーンの倫理 クルアーンと「神の言葉」(Kalām Allāh) アシュアリーと獲得説 (3)アシュアリー神学の特徴 (1)アシュアリー神学の位置づけ (4)啓示と理性 (1)神の予定と人間の自由意志 ①法と道徳 (1)イスラーム神学の成立 (4)生成された言葉 (1)ロゴスとカラーム 27スラーム法 59 5哲学的倫理思想 86 5恩恵としての「言葉」 (2)聖典研究の立場 2ムウタズィラ学派倫理思想の特色 4)行為の獲得 (2)善と悪…道徳原理の根拠 2アシュアリーの生涯と著作 6神秘主義的倫理思想 101 ③「言葉」(kalām)の定義 (5)獲得説の展開

(3)行為と行為主

クルアーンにみる世界の創造 新プラトン主義とイスラーム神学 4.創世神話仮説 ①神の啓示「クルアーン」 (1)アラブ世界のプロティノス --プロティノスとアブー・フザイルの「一者論」 5恩寵としての創造 124 2断片的な啓示 (2)「ギリシアの賢者」にみる存在論

6洪水伝説

146

③絶え間ない創造

③創造と流出

(4)アブー・フザイルの神観念

5神の世界創造

イスラームの世界観

123

⑥三宗教の原点

四 Ξ 来世の復活と新しい創造 原子論的宇宙論 (9)人間観・社会観の基盤に ⑦バーキッラーニーの不断の創造 (A)偶有('arad) (1)イスラーム神学の宇宙論 (1)原子論的存在論 ―アシュアリーからジュワイニーまで 5不断の創造 2原子の最小単位 171 2原子論と偶因論 (8)ジュワイニーの原子論 (6)バーキッラーニーの原子論 183

③アブー・フザイルの「原子」

(3)新しい創造

ひとつの神と三つの宗教 ..... 一 ムウタズィラ学派の属性論にみる「神の唯一性」

第四章

(1)ムウタズィラ学派 -理性主義的神学

3属性とその要因 (4)属性論の課題

イスラーム神学とキリスト教 225

\_\_

②ワッラークとシャフラスターニーの「一体化駁論」 ①中世イスラーム神学におけるイエス論の概観

イスラーム神学と「三位一体論」

Ξ

③三つのペルソナ ⑴宗教間対話とムウタズィラ学派 ―アブドゥル・ジャッバールのキリスト教理解 (4) 「三位」と属性 27スラームの「イエス」 (5) 一体化 231

208

②神の唯一性(al-tawḥīd)と属性

207

ix

――神性と人性

## 第五章

①啓典の民

(5)サアディアとイスラーム神学

宗教多元主義とイスラーム (1)宗教の独自性とはなにか 268

(2)神の子と預言者

③イスラーム的多元主義

4「父なる神」と「慈悲深き神」

中世イスラームのインド仏教観 291

平和を作り出すために 303

(4)アブドゥル・ジャッバールの立場

(5)待たれる相互関係の研究

(3)バーキッラーニーの見解

①乏しい資料

(2)シャフラスターニーの記述

=

①平和を作り出すもの

(4)神の意志

(5)命の価値の差異

索

51

322

あとがき

315

(2)魂の救済装置

(3) 「暴力」とはなにか

⑥ユダヤ教・キリスト教・イスラームの協働を

267

х

共存と対話の思想史

四

253

2歴史的概観

③ズィンミー規定

(4)ユダヤ学院の発展